# 国宝 鑑真和上展 小学生のための展示プログラム「あきらめなかった人の顔」の実施から（報告）

鈴 木 有 紀

## 1 はじめに

当館では平成15年２月７日から３月23日にかけて「唐招提寺金堂平成大修理記念 国宝 鑑真和上展」を開催した（写真１）。本展は８世紀に制作された日本最古の肖像彫刻であり、唐招提寺の精神的象徴として1200年以上にわたり大切に伝えられてきた国宝・鑑真和上坐像を中心に、唐招提寺の歴史的な意味と当時の唐（中国）の円熟した芸術を背景に華ひらいた天平時代の仏教美術の至宝を紹介するものである。期間中には県内外から多くの人々が美術館を訪れ、館内は連日にぎやかな様子であった。

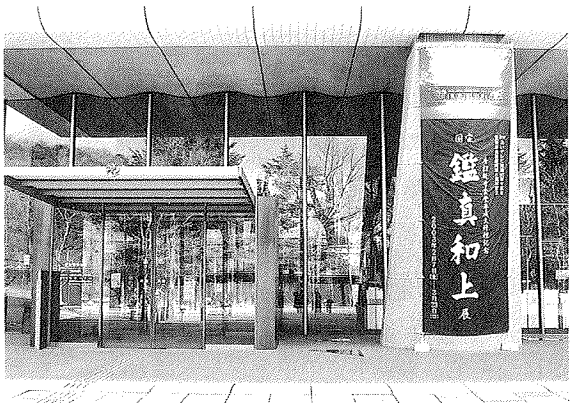


写真１

本展覧会では学生用・一般用の音声ガイドプログラム（この音声ガイドは全体が物語のようにつながっており子どもたちにも好評であった）と、週一回の学芸員によるギャラリートーク（対象は主に大人）の他は、子どもを対象とした展示プログラムのようなものは特には準備していなかった。しかし、途中から美術館近隣の小学校（５年生　25名）より展示案内の依頼を受け、展示プログラムを実施することとなった。

プログラムの進め方については事前に学校と打ち合わせを行った結果、鑑真和上坐像に焦点をおいたプログラムを１時間程度、残りの時間は展覧会の自由見学となった。これは、鑑真和上については確かに６年生で学ぶ歴史の教科書には登場するけれども授業では詳しく触れる時間がなかなか持てないということ（資料１）、今回、美術館で国宝鑑真和上坐像を実際に見ることが出来るので是非、子どもたちに本物を見てもらいたいという担当教諭の思い、そして見学予定時間が約２時間ということがその理由となっている。ここではこの「国宝　鑑真和上展」において試みた小学生のための展示プログラム「あきらめなかった人の顔」について、その作成準備から実施、そして実施から一ヶ月を経て行った子どもたちへの追跡調査の結果について報告するとともに、今回の試みについてのふりかえりを行い、展示プログラムの作成・実施について今後の課題を述べてみたい。

## 2 プログラムの作成準備

### (1) プログラムキーワードの選定について

今回のプログラム作成にあたって最も注意を払ったのが“子どもたちと鑑真和上をどのような視点でつなぐのか”ということであった。これは、子どもたちと鑑真和上との間には1250年という時間の隔たりがあり、この時間を越えて鑑真和上という人物について、子どもたちに現実感のあるイメージで見つめてもらうためにはどのような視点で臨むのが良いのだろうかということである。

本来ならばこのプログラムキーワードについては来館予定である子どもたち一人ひとり（今回の場合25名）に事前に唐招提寺や鑑真和上について知っていることや経験していることの話を聞きながら、そこから考えられる子どもたちの視点を基にプログラムを準備していくことが望ましい。そうすることが

資料１　子どもたちの使用している教科書（左）と資料集（右）に記載されている鑑真和上の紹介

子どもたちにとって本当の意味での鑑真和上坐像との出会いとなり、意義のある美術館での体験となるからである。実際、担任の先生と打ち合わせをしていた段階では子どもたちの鑑真和上についての事前知識や経験は白紙に近い状態と思われた（来館前の事前学習らしきものも見られなかった）が、プログラム終了後の子どもたちとの会話の中では、自宅にある写真集などで以前から鑑真和上坐像を見ている子や両親から唐招提寺についての話（奈良への旅行話）を聞かされている子もいたのである。このような経験を持っていた子どもたちの話を交えて、鑑真和上の写真等を見ながら事前に来館予定の子どもたちと鑑真和上について話し合っていたならば、もしかしたら今回、美術館が提供した以外の視点の発見があったかもしれない。しかし、展示解説の要請を受けた時点ですでに来館予定日まで２週間を切っていた。

そこで、プログラムキーワードの選定は美術館の方で行うこととし、鑑真和上という人物について考えながら、子どもたちと鑑真和上の距離を縮める視点は何かということについて探った。そして、12年の歳月をかけ、六度にも及ぶ多難な渡航を乗り越えて来日したこと、一度、口に出した約束を最後まで守り通そうとしたその姿勢から、その強い意志はいったいどこからくるものなのか－“あきらめない心”とはどんなものなのか、というキーワードが浮かび上がって来た。

### (2)　キーワード「あきらめないということ」についての子どもたちの考え

ここで、この“あきらめない心”というキーワードについて、来館予定の子どもたちはどのような考えを持っているのだろうか、ということが気になった。果たして子どもたちは一度自分が決めたことを簡単には投げださないことや、もし途中でそれが実現達成にはほど遠い状況になってしまったとしたら、その事をどのように捉えるのだろうか。すぐにあきらめてしまうのか、それとも何とか続けようとするのか。また、物事をあきらめずに続けていく人間の姿をどう感じているのか。そして子どもたち自身のやり遂げたいことはどんなことなのか。キーワードに対する子どもたちの考え方によっては次につなぐプログラムの内容にも配慮が必要である。

そこで、担任の先生の協力を得ながら子どもたちが美術館を訪れる前にこのキーワードに対する考え

を聞いてみることにした。ただ、前述のとおりプログラム担当者が学校に赴き子どもたちと直に話をする時間がなかった。そこで今回は先生にお願いして、アンケートのような形で子どもたちに対して“あきらめない心”についての考えを聞いてみることにした。

しかし、ここでいきなり“あきらめないこと”についてどう思うか？という問いを子どもたちにしても、子どもたちは困ってしまうことが予想された。そこで、アンケートでは子どもたちにもイメージし易いような身近な事柄として、“大人になったらなりたいもの、将来の夢”というテーマでそれぞれの考えを聞いていくことにした（資料２）。

質問の内容は３つに分け、①大人になったら何になりたいか②どんな大人になっていたいか③もし、将来の夢が途中で挫折しそうになったらどう考えるのか、となるべく子どもたちがイメージしやすいように順序立てて聞いていった。また、じっくり時間をかけて考えたい子どもには提出をあまり急がなくても良い旨を先生に伝えた。しかし、子どもたちは面白がってすぐに書き上げたらしく、“あきらめない心”についての考えが書き込まれたプリントは学校からすぐに返送されてきた。

番町小学校のみなさんへ

３月18日には愛媛県美術館の鑑真和上展にようこそ!!その前に少しだけ教えてください!!

① 大人になったら、やりたい仕事は何？なりたいものは何ですか？

② どんな大人になりたい？どういう大人になっていたい？

③ やりたい仕事や、なりたい自分について途中で誰かに反対されたり、事故にあって体が不自由になってしまったら、どうしますか？また、そんな風になってしまっても一度決めたことを続けていく（夢をかなえる）ためには何が必要だと思う？

④ →？（この質問は美術館で!!）

……では、楽しみにして美術館でみなさんを待っています。

資料２　子どもたちへの事前アンケートの内容

“将来の夢”についての質問は筆者のこれまでの経験から、どんな子もその時のその子なりの想いを持っていることはある程度予測できた。しかし、三番目の「夢が途中で挫折しかけたら」の問いについては、もしかしたら困ってしまう子もいるのではないか、子どもたちはどのような考えを書いてくるのだろうかと正直その反応を心配した。子どもの持つ楽天性[1]という部分は信頼していた。しかし、あまり明るいとはいえないこの現代に、たとえ子どもであっても真近で困難な現実に遭遇することもあるだろう。（すでにそういう経験をしている子がクラスにいるかもしれない）もし、そういう子どもが一人でもいれば、その気持ちにも配慮をおくプログラムが必要である。

果たして事前に子どもたちに書き込んでもらったアンケートは、困難にあってもなんとかがんばろうとする気持ちで溢れていた。また、気持ちだけでなく具体的にどう行動するかということにまで及んだものもあり、改めて子どもたちの一生懸命な考えに姿勢を正した（資料３）。そうして、このアンケートの結果から、この“あきらめないこと”というプログラムキーワードは積極的で前向きなものとしてとらえ、当日の鑑真和上坐像の前まで子どもたちをつないでいくものとなった。

## ３　展示プログラム「あきらめなかった人の顔」の実施

ここでは、当日のプログラムの内容と子どもたちの様子について紹介したい。まず、使用した展示室やプログラムの目的については次のとおりである。

### (1)　プログラム概要

①　実施日時

平成15年３月18日（火）午前10時～12時（プログラムは１時間程度、残りの時間は自由見学）

②　使用した展示室

国宝鑑真和上展会場のうち、「鑑真和上と唐招提寺」がテーマの展示室（美術館２階・常設展示室１）

③　対象及び人数

松山市立番町小学校５年生25名

④　目　　的

“あきらめないこと”というキーワードを通して鑑真和上という人物について、子どもたちに知ってもらう。鑑真和上と子どもたちの距離を近づける。

(2)　プログラムの進行と子どもたちの様子

当日は美術館玄関前で子どもたちを出迎えた後、展示室に入る前にまず事前のアンケートを振り返る形で、オリエンテーションを行った。子どもたちとは事前のアンケート用紙の上では既に出会っているが、顔を合わせるのはこれが初めてである。いつもとは違う空間と初対面である美術館の人間に子どもたちは緊張している。オリエンテーションを行うのはこの緊張感を少し和らげるためと、次のプログラムに移り易くするためのウォームアップのためでもある。

オリエンテーションでは子どもたちにアンケートへの回答についてお礼を述べた後、展示室に入る前にそれぞれが書いた“将来の夢”について少し話し合うことを告げ、事前のアンケートをもとに25名一人ひとりの“将来の夢”への想いを振り返って行った。

「大人になったら、カフェのオーナーになりたいと書いてくれたのは誰？（子どもたちから恥ずかしそうに手が挙がる）おしゃれだね。どうしてそう思ったの？」「お店をつぐ、と書いてくれたのは？すごいね。おうちは何をしているの？」「人の役にたつ仕事、と書いてくれたのは誰ですか？すてきだね。例えばどんな仕事を考えていますか？」という問いかけに、子どもたちは最初恥ずかしそうな表情を見せていたが、次第に慣れてお互いの話に笑みがこぼれ、また友達の話に真剣に聴き入っている様子も見られた。そして、アンケートの三番目の質問“夢が途中で壊れそうになったら”の箇所では、今度は皆が「あきらめない」「なんとかがんばりたい」という気持ちを示し、その頃には子どもたちもすっかりリラックスした表情になっていた。そして次に「では、“あきらめない人”ってどんな顔をしていると思う？どういう表情をしているんだろう？」と問いかけると、子どもたちはしばらく考えていたが、やがて「笑っている顔」「楽しそうな顔」「うれしそうな顔」という意見を寄せ、また、何故そう思ったのかを問う質問には「夢を達成出来た時には誰でもうれしいと思うから」「夢が叶えば自分だったらとてもうれしい」「泣くかもしれないけれど、それはうれし涙」という意見が返り、最終的には皆が「喜びにあふれている顔」という意見にまとまった。そこで次にこう問いかけた。「では、今みんなで“あきらめない人の顔”について話したけれど、これから行く展示室に、自分が決めたことを最後まで守り通した人が待っています。その人はその事を達成するまでに12年かかりました。それからその旅の途中で大切な仲間も亡くして、最後には眼も見えなくなってしまいました。でも、仏教の大切な教えを伝えるために今の中国から日本にやってきました。その人は鑑真和上と言います。これから展示室に行って鑑真さんに会ってみて下さい。そして、鑑真さんの顔をじっくり見つめてみて下さい。あきらめなかった人はいったいどんな顔をしているだろう？」

この問いかけに子どもたちからは「えっ12年も」「長い…」「眼が…」といった声が聞かれ、その表情は次第に真剣なものに変わっていった。

今回のプログラムで使用した展示室は鑑真和上とその旅路、そして和上が唐の国より招来した文物がテーマとなっている部屋である。これは子どもたちに、展示室で鑑真和上と和上の旅路の話に集中し易くするためである。鑑真和上座像の前に集まった子どもたちはその表情について角度を変えて見たり、ノートにスケッチしたり、友達どうしで印象を話し合ったり、また、少し見終えるとそばにあった解説文を読みそれについて質問して来たりとしばらく鑑真和上を見つめていた。そして、じっくりと鑑真和上を見つめた後は、和上の旅路や唐から招来した文物を紹介した展示の前でそれぞれの展示についての解説を行い、その後は自由見学となった。

プログラムの終了後、少し親しくなった子どもたちからは自分の家の写真集で鑑真和上を見たことがあること、両親が唐招提寺へ鑑真和上を見に行った話等を聞かされた。また、「鑑真さんの顔はどんなふうに見えた？」という質問には「苦労をしているように見えた（頬がこけているから）」「穏やかでや

さしそうに見えた」「右から見るとやさしそうで左から見ると厳しそうな顔」「泣いているようにも見えた」という声が返ってきた。

## 4　子どもたちへの一ヶ月後の追跡調査

### (1)　追跡調査の目的、方法

そうしてプログラム実施からちょうど一ヶ月経った4月中旬、担任の先生（担任の先生は子どもたちが進級したため前回と違う方であったが調査について説明すると快く承諾してもらった）の協力を得て、プログラムを受けた子どもたちに対し追跡調査を行った。これはプログラム終了後美術館を出て、ある程度時間が経過してからも鑑真和上について子どもたちが何らかの記憶をしているか、プログラムの目的は達成されているかについて確認するためである。調査は紙面による方法で行い鑑真和上について印象に残っている事を自由に記述する形で実施した（資料4）。

**番町小学校のみなさん**

**この前は美術館の「鑑真和上展」に来てくれてどうもありがとう。あれから一ヶ月がたちました。そこで、ちょっと<u>ひとつだけ</u>教えてほしいことがあります。それは…**

**「鑑真（がんじん）さんってどういう人だったと思う？」**
**鑑真さんについて自分の心に残っていること、なんでもいいので教えてください。**

**教えてくれてどうもありがとう!!**

資料4　追跡調査の内容

### (2)　調査結果

調査は、プログラムに参加した子どもたち25名のうち7名の欠席者を除いた18名からの回答を得て返送されてきた。子どもたちの回答用紙への記述にあたっては、記憶を誘発するような言葉かけ等は行わず、ただ記憶していることを自由に記述してもらうよう先生にお願いをしていたが、前回と同じく子どもたちは面白がってすぐに書き上げてしまったとのことであった（資料5）。

子どもたちの鑑真和上に関する記憶は、プログラム中、担当者が解説した鑑真和上の人となりやその旅路に関するものが半数、もう半数が鑑真和上坐像に見える、鑑真和上の顔、表情の印象についての記述であり、これによってほぼ全員が美術館を出てひと月を経過した後もプログラムで体験した出来事を記憶していることがわかった。このことに関しては、6年生の歴史の教科書に鑑真和上についての記述があることから、事前に子どもたちがそれらを目にしていたのではないかという可能性もあった。しかし、調査の時点ではまだその単元には達しておらず、また、子どもたちの記述に多数見られた“あきらめない”という言葉や考え方は、プログラム体験者でないと表れないことから、結果、本プログラムの目的である“あきらめない”という視点から、鑑真和上という人物について子どもたちに知ってもらう、子どもたちと鑑真和上の距離を縮める、ということは、ほぼ達成されたのではないかという印象を得た。

しかし、追跡調査の終了から時間が経つにつれて、子どもたちに実施したプログラムは本当にこれで良いのだろうか、目的の持ち方や進行の方法は果たして本当にこれで良かったのだろうか、という疑問が湧いてきた。確かにプログラム実施からひと月を経過した後も、子どもたちは鑑真和上についてよく記憶しており目的は達成されているように見えた。しかし、追跡調査結果に記された子どもたちの鑑真和上についての記述を見ていくに従い、次第にプログラムの目的や構成、進行の在り方について、子どもたちに対し明らかな思い違いをしていたことがわかってきた。

## 5　ふりかえりと今後の課題

### (1)　「子どもたち自身の」学び

前述のとおり、この“あきらめない心”というプ

ログラムキーワードは、美術館側から用意した視点であり初めは子どもたちのものではなかった。しかし、途中からそれは「美術館から与えられた」視点ではなく、「子どもたち自身の」視点として変化し始めていた。

このことは追跡調査結果の子どもたちの言葉の中によく現れている。この調査の中で例えばある子どもは「（鑑真さんは）目が見えなくても、とてもうれしそうな顔だった。途中で仲間と離れてしまったのに最後まであきらめず海をわたって日本に来てとてもすごいと思った。自分だったら出来ないと思う」や「異国から日本にやって来た人。自分のやりたいことを成し遂げて笑顔ではないが奥底に喜びを秘めている人。」、「鑑真さんは、勇気のある人だと思います。なんでかというと、鑑真さんは遠くから来たからです。鑑真さんの顔は、私には充実感で一杯の顔に見えました。多分、本当にそうだったんだと思います。」という言葉を寄せ、また別の子どもたちは「鑑真さんの顔は目標を達成したのに悲しそうな顔をしていた」や「ぼくは鑑真さんの顔を見て少し悲しそうな顔をしていると思いました。性格は落ち着いていて、とてもえらく自分に厳しく人に優しい性格だと思いました。」、「苦労を乗り越えて、立派な人だと思います。苦労を乗り越えてもうれしそうにしない。鑑真さんは何か悩みがある人ではないでしょうか」等、前述の子どもたちとは反対の意見を寄せていた。また別の子どもは「顔…やっと日本に着いて今までのことは忘れるくらいうれしくて笑ってもいたし、今までの苦しみを思い出し、悲しそうにも見えた」という意見を寄せていた。つまり子どもたちは、美術館で用意した「あきらめない人間の顔」についての疑問を自分の中に取り込み、自らの問いとして鑑真和上坐像を見つめ、その表情についての解釈や洞察を試み始めていたということである。

しかし、湧き起こり始めていたこの子どもたちの考えに対して、プログラムの中では鑑真和上坐像を見つめながらそれぞれに違うお互いの考えをじっくりと聴き、話し合い、その考えを発展させ、子どもたち自身の力でその問いの行方を見出していくという時間を持たなかった。プログラムでは鑑真和上の人物像やその旅路についての解説はあったが、それは子どもたちが持ち始めていた問いや考えに応えていくものではなかった。

追跡調査結果は確かにプログラムが子どもたちが鑑真和上の人物とその旅路について知るために効果があったことを示していた。しかし、もし展示室の中で、鑑真和上坐像を前に上に述べたような「対話」を子どもたちと行っていたならば、ゆっくりと時間をかけてその表情について子どもたちと味わう、というようなプログラムであったならば、（実際にはプログラムはそのようには展開されなかったため、子どもたちの問いがどのような方向に発展したかどうかはもはや推測の域を出ないが）子どもたちと鑑真和上との出会いはもっと深く、今回の美術館での体験は子どもたちにとって、忘れ難いものになっていたかもしれないのである。

### (2) 「開かれた質問」によるワークシートの検討

また、後日来館した別の小学校の子どもたちからも多くのことを学んだ。今回のプログラムを実施してから数日後、今度は別の小学校（6年生151名）より展示案内の依頼を受けた。事前の打ち合わせでは、前回と同様、鑑真和上については授業ではあまり触れていないので子どもたちに是非展覧会を見てもらいたいということからプログラムの目的に添っての展示案内が出来るかもしれないと思った。しかし、滞在時間の関係で子どもたちへの展示案内は一斉にしてほしいという申し出があった。151名の子どもたちに一斉に話を行うとなると、子どもたちそれぞれの顔は見えにくく、プログラムのように語りかけるのは難しい。そこで当日は美術館の講堂で展示に関する説明を行った後、展覧会の自由見学、そして展示室で個々に子どもたちの質問を受ける、というスタイルをとった。しかし、今度はどのような子どもたちが来るのか知りたいという思いから子どもたちの来館前にプログラムと同じ事前アンケートを実施した。結果は、大多数が前回と同じく前向きな気持ちで占められており（資料3）、このことからもしかしたら151名という人数であっても、問いか

け方次第によっては子どもたちと鑑真和上の距離は縮まるのではないかという感触を持った。先に述べたように今回実施したような展示プログラムは大勢で来館する学校団体には向かない。美術館をじっくり楽しんでもらうためには、学校団体の美術館への来館は出来ればクラス単位が望ましい。しかし、学校側の事情もあり美術館を訪れる学校の多くが上に述べたような学年単位か学校単位での来館である。

筆者のこれまでの経験ではこのような大人数の学校団体が来館した時には「学習ノート」または「ワークシート」と呼ばれる子どもたち個々人で館の展示について観察しながら“答え”を書き込む冊子を作成し、利用してもらうという見学方法を採ってきた。このワークシートによる手法は当館に限らず多くの館で用いられているものであり、子どもたちに展示の概要を知ってもらうひとつの方法である。しかし、博物館や美術館の展示室内でこのワークシートに書き込みをしている子どもたちの姿を観ていると、果たして本当にこの方法で良いのだろうかという疑問が湧いていた。確かに子どもたちは資料や作品を見てシートに一生懸命書き込みをしている。しかしそれは“答え”を書き込むことに必死になっているようで、作品を「自分の目で」見ているようには見えないのである[2]。では、どこに問題があるのか。

この問題について高知大学の上野行一は「閉じられた質問と開かれた質問」として次のように述べている[3]。

> 「閉じられた質問」は事実をきく質問、知識を確かめる質問である。この質問では観客や生徒の考え方や感情を具体的に把握できない。一人ひとりの思考による独自の発見が問われるのではなく、あらかじめ決定されている明確な答えを探すことが要求されている。(中略)「鳥はどこにいますか」や「ケシの花」はどこにありますか」などの質問もそうである。ちょっと見つけにくいかもしれないが、しっかり画面を観察すれば見つかるだろう。まちがい探しをするような楽しさがあるけれど、その楽しさは観客や生徒が最初この絵と出会ったときに感じた思いとは異質なものだろう。鳥や花がどこに描かれているかがわかることと、この絵を「自分の目でみる」こととは区別されなければならない。
>
> ひとつの「正解」に誘導していくのも「閉じられた質問」の特徴である。エドヴァルト・ムンクの《病める子ども》(1907年)には、このような質問がある。まず、「母親の洋服の色は、葬儀や喪を思わせます」という質問があって、そのあと「洋服は何色ですか」と問われる。画面をみればすぐに、暗い紫紺系統の色であるとわかる。そしてつぎに「葬式のときは、ふつう何色の服を着るでしょうか」と問われるのだが、これも黒系統としか答えようがない。はじめに書かれた説明を肯定していくための質問であり、書き手(教える側)の設定する「正解」に鑑賞者を誘導していく質問だといえる。(中略)用意された正解へ誘導するような「閉じられた質問」の連発は、一考の余地がある。
>
> 一方「開かれた質問」は、その性質から三つに分類できる。一つめは分析的な開かれた質問である。「なぜなのか」と原因をきいたり、「なぜそうなったのか」と動機を問う質問がこれにあたる。二つめは総合的な開かれた質問である。「どうなるか」と結果を予測したり、「どのようにして」と問題解決をするような質問である。三つめは評価的な開かれた質問である。「あなたは、どう考えるか」と個々の判断を問うような質問がこれにあたる。どのタイプの質問にしても、観衆は自分の解釈を問われることになる。

前述の151名の子どもたちのアンケート結果からは、「問いかけ方次第」によっては子どもたちと鑑真和上の距離は縮まるのではないかということを述べた。つまり大人数の団体であっても従来のようなワークシートではなく、「開かれた質問」によるワークシート、今回の展示で言えば「あきらめない人間とはどのような表情をしていると思うか」という問いかけから始まる、発問数も限った、鑑真和上坐像のみを自分の目で見つめることを目的としたワークシートの作成が可能ではないだろうか。しかしこ

のワークシートを効果的に行うには、やはり来館前の子どもたちへの事前準備と来館後のフォローアップ（シートは決まった「答え」を求めるものではないので、見学後のフォローアップが必要である）が重要であり、子どもの周りを囲む博物館と学校との入念な協力体制が必要となってくる。学校との連携について考える上でも、今後この開かれた質問によるワークシートの作成については検討を行っていきたい。

## 6　おわりに

冒頭でも述べたとおり、本プログラムは当初予定されていたものではなかった。そのためかなりの準備不足の部分があり、この反省は次回の取り組みに活かしたい。しかし今回の実施は今後、博物館（この場合美術館も含む）での学びについて考え、利用者とつながる展示やプログラムを考えていくにあたって欠くことのできない視点を提供してくれた。

最後にこの博物館と利用者をつなぐ展示について、滋賀県立琵琶湖博物館の布谷知夫はこう述べている[4]。

> 展示とはそれを作成する側が伝えたいメッセージを形にしたものであるといわれています。たとえば展示評価では、そのメッセージの伝わり方を測定して、そのメッセージがより多くの人に伝わるように展示を改善していきますが、これは博物館と来館者とを、博物館が望むメッセージを通してつないでいこうとする意思の表れです。
>
> 展示においてメッセージを明確にするということは何よりも大切であると思われます。しかし問題はそのメッセージの立て方です。
>
> 博物館においては、展示は「真実」を伝える場であるという大変に政治的な考え方がなされている時代もありましたが、現在もやはり原理原則を展示しなくてはならないという考え方で展示がつくられているのではないでしょうか。
>
> もちろん、原理原則を展示する博物館も必要だと思います。（中略）しかし、情報がこれだけ過多の時代、博物館で提供できる程度の情報は、すでに大部分の来館者は知っていると考えるべきです。来館者はもちろん専門家ではないので、詳細についての知識は少ないでしょうが、展示を見て、「目からうろこが落ちるような発見をする」というようなことは起こらないでしょう。博物館が教科書の内容を教えるような展示をしても、来館者をつなぎとめることはできないと考えます。
>
> 博物館のメッセージは、特定のある情報や知識を伝えることではなく、ある課題について、博物館と来館者とが一緒に考えるということに置くことができるのではないでしょうか。（中略）なぜその展示を作ったのかという、その時代についての、博物館からの何らかの働きかけが必要です。（中略）このように来館者が、展示との対話を通して自分の知識や経験を振り返ることができたときに、展示と来館者とが「つながった」、と考えられるように思います。
>
> 来館者は、展示を作った側の意図に全く反した展示の見方をすることが多い、ということはすでに多くの事例が報告されています。それは展示を見る人はその時の自分の関心事や興味をもっていること、あるいは自分の経験や知識の範囲内で得た情報を処理しようとするからです。展示室は教育の場ではなく、来館者個々人の発見があり、自分の知識をもとにして考えることを楽しむ場でありたい。それならば逆に、展示を見る側の多様さを認めて、その人なりに考えることができるような情報を準備するという展示が考えられると思います。
>
> そして、これを認めてしまうと、博物館と来館者との関係は、微妙に変化していきます。つまり博物館は一方的に来館者に教える場ではなくなり、博物館は逆に来館者から、いろいろな情報を得ることができるようになる、来館者が展示室で主体的に考えたとき、その人だけがもつ個人的な情報が思い出されはじめてその人は納得するでしょう。そしてその新鮮な体験を人に伝え、残して帰りたいと思うものです。（中略）このように博物館と来館者とが相互に情報を交換できるようになったときに、本当に両者が「つながる」のだ

と思います。

これは美術館ではなく歴史系博物館の展示について、その在り方を考える席で語られたものである。この言葉を受けて博物館と美術館は違うものであり自館に当てはめるのは難しい、という考えがあるかもしれない。確かに美術館と博物館は扱うモノも、そのモノのとらえ方も異なり（歴史系の博物館と自然科学系の博物館でもそれは異なるだろう）、全て同じとは言えない。しかし、博物館を訪れる「利用者自身の」学びを重視すること、そしてその人なりに考えることができるような「開かれた課題」とともに、展示室の作品や資料の前で博物館と利用者がいっしょに考え、話し合い、展示を見つめる、という視点はどのような種類の博物館においても共通のものではないだろうか。博物館という場所は美術、歴史、自然史、科学を問わず、利用者に何かを「教える」場ではなく「利用者が」作品や資料を見つめることを通して、自己を見つめ、振り返り、成長していける――人が「生きていく力」を育むことのできる場所の一つではないだろうか。

近年、この利用者と博物館とをつなぐための様々な取り組みが各地の博物館の展示やプログラムにおいて始められている[5]。そしてその中からはその後の利用者と博物館の関係についての興味深い報告もなされている。また、このような博物館での人々の学びを支える担い手として、エデュケーターと呼ばれる博物館教育の専門職を配置し研究職との協業を行いながらダイナミックな博物館活動を展開する館も既に登場している[6]。これらの先進館や事例から学ぶことはとても多い。しかし、一番大切なのはそれぞれの館での取り組みであり、自館を訪れる利用者を見つめることから始まる。

展示室の中で、また博物館の外で、子どもたちの、利用者の発する言葉に注意深く耳を傾け考えながら、これからも博物館での学びのあり方について探っていきたい。

註

（1）子どもの持つ楽天性－世の中の害悪の存在を認めながらも人生に明るい見通しを持ち、常に物事を明るい方向に考えようとする、子どもの中にある性質、心。

（2）例えば2003年11月に国立歴史民俗博物館において開催された第7回歴博国際シンポジウム『歴史展示を考える－民族・戦争・教育』の中でオーストラリア・メルボルン博物館から報告された事例では、子どもたちがワークシートに答えを書き込むために展示室の中をせわしなく歩き廻る様子や展示室の一角で展示を見ることなく答え合わせをしている様子が報告されており、決まった答えを探し出し書き込む作業には子どもたちを急がせ、展示をじっくり見ることを妨げるおそれがあることが述べられている。また、国立民族学博物館の佐藤優香の報告「ミュージアム・リテラシーを育む－学校教育におけるあらたな博物館利用をめざして－」の中では「“ひとつの資料を選び、絵を描きなさい”という遠足のプリントを手にして博物館を訪れた子どもたちが、展示場隅の休憩所の椅子に座り、実物ではなくパンフレットの写真を見てスケッチしている姿を何度も目にしている」ことが報告されている。

（3）上野行一監修『まなざしの共有－アメリア・アレナスの鑑賞教育に学ぶ』（2001、淡交社）pp.74－76

（4）“博物館と来館者を「つなぐ」展示とは”討論「歴史展示とは何か」国立歴史民俗博物館編『歴史展示とは何か－歴博フォーラム　歴史系博物館の現在・未来』（2003、株式会社アム・プロモーション）pp.224－226

（5）例えば美術系では、1999年11月から2000年3月にかけて行われた北海道立旭川美術館の「コレクションによる－注文の多い美術展」、宮城県美術館のプログラム「美術館探検」「美術探検」、2003年11月に川村記念美術館・日本アートマネジメント学会・美術館ネットワーク研究会主催で行われた「アメリア・アレナス鑑賞教育セミナー」、歴史文化系では愛知県・師勝町歴史民俗資料館のプロジェクト「昭和日常博物館の試み」と「高齢者ケアとしての回想法事業」、国立民族学博物館の佐藤優香によるミュージアム・リテラシー（博物館を使いこなす力）を育むプログラム「ふでばこ展覧会」、自然科学系では1999年7月から9月に行われた千葉県立中央博物館の「かえるのきもち」展、林原自然科学博物館ダイノソアファクトリーの常設展示ならびに同館の運営体制、1999年11月から2000年2月にかけて行われた滋賀県立琵琶湖博物館の常設展示横断プログラム「漁師修業の旅」、2001年1月から3月にかけて行われた伊丹市昆虫館の「おりおりムッシー展」等他先進的な取り組みが多数実施されている。

（6）2002年9月に東京有明のパナソニックセンター内に開館した「林原自然科学博物館 Dinosaur　FACTory（ダイノソアファクトリー）」のこと。同館では研究者、展示の企画・教育プログラムの開発を行うエデュケーター、化石のクリーニングや修復作業を行う専門家プレパレーターの協業による博物館活動を展開しており、専門のプロ集団に支えられた活動は今後更に注目したい。

参考文献

浅川真紀「展覧会報告“注文の多い美術展”～コレクションを活用した参加型展覧会の試み」『北海道立旭川美術館だより　氷華』№42（2001、北海道立旭川美術館）pp.２－３

『新しい社会６上』(2002、東京書籍)

井島真知「ミュージアムエデュケーターとして考える教育と展示」日本展示学会誌『展示学』第28号（1999、日本展示学会）pp.64－70

井島真知　林原自然科学博物館「外国人向けの案内 Welcome all equally」『全科協ニュース　特集外国人向け案内』Vol.33.No.5（2003、全国科学博物館協議会）pp.３－４

市橋芳則「“昭和日常博物館の試み”の継続と“回想法・高齢者ケアの古くて新しいツール”の展開について」『季刊 Museum Data』№62（2003、丹精研究所）pp.２－８

K.マックリーン　井島真知・芦谷美奈子訳『博物館をみせる－人々のための展示プランニング』(2003、玉川大学出版部) Kathleen Mclean, *PLANNING FOR PEOPLE IN MUSEUM EXHIBITIONS*

久保田賢一『構成主義パラダイムと学習環境デザイン』(2000、関西大学出版部)

佐藤優香「ミュージアム・リテラシーを育む－学校教育におけるあらたな博物館利用をめざして－」『博物館研究』Vol.38No.２（2003、財団法人日本博物館協会）pp.12－15

『全国美術館会議　教育普及ワーキンググループ活動報告１　美術館の教育普及・実践理念とその現状』(1997、全国美術館会議教育普及ワーキンググループ)

『ビジュアルワイド　調べてワクワク知ってドキドキ　社会科資料集６年』(2002、東京書籍)

『文部省親しむ博物館づくり事業「漁師修行の旅」実施報告書』(2000、滋賀県立琵琶湖博物館)

拙稿「博物館見学プログラム“さがしてごらん、カミさまはどこにいる？”－子どものための教育活動の試み－」『愛媛県歴史文化博物館研究紀要』第４号（1999、愛媛県歴史文化博物館）pp.126－131

拙稿「研究ノート　ビジターへの学習活動の支援について～インタープリテーションの意義～」『愛媛県総合科学博物館研究報告』第１号（1996、愛媛県総合科学博物館）pp.51－56

## 資料３　“あきらめない心”についての事前アンケート結果

※子どもたちの言葉には重複するものも多数見られるが、一人ひとり、その子ども自身の言葉であることから、あえて集計はせず、そのまま載せた。読み辛い点はあると思われるがご了承願いたい。

| ①　大人になったら、やりたい仕事は何？なりたいものはなんですか？ |
|---|

（松山市立番町小学校５年生25名）

・歴史、英語をつかって仕事ができたらいいと思う。
・スポーツ選手
・（無回答）
・医者か警察官（あとつぎ）
・プロ野球選手
・人に教える仕事
・人の役にたつ仕事
・公務員
・プロ野球選手
・弁護士
・親が営業している店をうけつぎたい
・カフェのオーナー
・医者
・サッカー選手
・スポーツ選手
・プロ野球選手
・新聞記者（カメラマン）
・お店をつぐ
・人の役に立つ事
・スポーツ選手
・ボクサー
・野球選手、学校の先生
・店をつぐ
・空手の先生
・幼稚園、保育園の先生

（松山市立余土小学校６年生151名）

・人を楽しませる仕事、スポーツ選手
・人の役に立つ仕事
・ピアニスト
・地雷をかんたんにあんぜんにてっきょできるきかいを作りたい。
・小さな島や町に行って、おにぎり・お弁当屋さんになりたいです。
・大人になったら獣医になりたい。
・建築家
・看護師さん
・医者になりたい
・グラフィックデザイナーになりたい!!犬のしいくもしたい（トリマー）

・トリマーになりたい。
・大工
・空手のせんしゅ
・野球選手になりたい
・外国の児童書を訳す仕事
・デザイナーです。
・ニュース関係の仕事、パテシェ
・じゅうい、新聞記者…などありますが、まだほとんどどんな仕事があるのか知らないのでわかりません。でも、人がいるかぎり、必要な仕事をしたい。
・Ｊリーガー
・動物園の飼育係
・社会人野球、自動車会社（トヨタ）
・レーサー
・スポーツ選手になりたい。
・飛行士になりたい。
・テニスプレイヤー
・パティシエ
・裁判官
・バスケット選手
・エステシャンになりたい
・剣道を教える先生
・看護師になりたいです。
・大工になってカンナで木をけずったりしてくぎをうったりする。
・薬剤師
・それは、絵をかくのが好きなんで、絵をかく仕事か、絵に関係する仕事です。
・絶対にサッカーのプロ選手になりたい。
・大人になったら私は保母さんになりたいです。
・車のせいびしになりたい。
・大工さん
・郵便局の人になりたい。
・スポーツ選手
・保母さん
・スポーツ選手になりたい。
・サッカー選手
・まだ、とくにきめていない。
・バスケットボール選手
・陸上選手
・まだ決めていない。
・医者になって人をたすけたい。
・プロバスケットボール選手
・プロ野球選手
・プロバスケの選手？
・（タイガーウッズみたいに！）プロゴルファー
・プロ野球選手
・医者
・プロ将棋の棋士
・保育士
・マンガ家か、画家
・プロ野球選手
・アルバイト
・保母さんになりたい。
・プロバスケの選手
・総理大臣か弁護士
・保育士
・調理師
・キャビンアテンダント
・野球選手
・レーサー
・通訳者、獣医さん
・保母さんです
・プロ野球選手
・人のためになる仕事
・プロ野球選手
・マンションの管理人
・サッカー選手
・医者
・弁護士、政治家
・保母さん
・通訳者か整体士
・保母さん
・医者
・保育士
・普通の会社員
・女優さんになりたい
・プロ野球選手
・看護婦

・警察官です
・職人
・ふつうのサラリーマン
・特にない
・医者
・やりたい仕事は機械関係の仕事をしたい。
・美容師
・美容師
・動物園での仕事
・お笑い芸人、プロレスラー（新日本ジュニア）
・りょうし
・通訳
・プロボクサー
・外国で人をたすけてあげたい。
・刑事
・まだきまっていません
・おかしの職人
・プロのサッカー選手
・弁護士
・保育士
・プロ野球選手
・私は大人になったら保育士か手芸デザイナーになりたいです。
・建築士
・建築技師
・大工
・探検家
・やさしい、すてきなおくさま
・大工
・いろいろな人をたすけられるような仕事
・サッカー選手になれたらいいなと思います
・裁判官
・いろいろあって一つに決めていない。
・イラストレーターになりたい。
・人のためになる仕事
・猟師、警察官（白バイ）、陸上じえい隊
・動物のためになる仕事
・プロサッカー選手
・プロ野球選手
・プロサッカー選手
・プロの野球選手
・保母さん
・プロ野球選手（レフト）
・警察官、スポーツ関係の仕事
・やりたい仕事は保育士さんです。
・柔道の先生になりたい。
・まだ決まっていない。
・看護師
・老人ホームの施設の一員
・いまのところ、獣医
・マンガを書くことか野球選手とかサッカー選手になりたい。
・サッカー選手になりたい。
・アニメかんけいの仕事かマンガ家
・看護師
・お笑い芸人
・ペットショップの店員
・食べ物のみせ
・まだ、考え中です。
・人のためになる仕事
・今をはっきりしていないけど、動物をたすけてやる仕事
・漫画家
・人のためになる仕事がしたい。
・サッカー選手
・サッカー選手とパソコンのソフトをつくる仕事
・いろいろあって決められない
・人の役に立つ仕事につきたい、まだ考えつかない
・警察の音楽隊

**②　どんな大人になりたい？どういう大人になっていたい？**

（松山市立番町小学校５年生25名）

・いろんなことができる人になりたい。
・人に役に立てる、楽しませる人。
・身長が長い大人になりたい。
・特になし（ふつうの人間）
・人の役に立つような大人

・人にやさしく、分かりやすく話せる大人
・人に親せつをする大人になりたい。
・仕事熱心な大人
・罪をおかさない大人
・努力をもつ大人になりたい。
・努力と根気を持った大人になりたい
・子どもにやさしい人
・世界にみとめられる大人
・友達と仲の良い大人
・やさしい大人
・かっこよくて、人に好かれる選手
・自信をもって、最後までやりとげる大人
・規則正しい生活ができる大人
・親切
・つねに、人のことを考えて行動できる大人になりたい。
・器の大きい人
・小さい子、子どもにやさしい人
・規則正しい生活ができる大人!!
・整理整頓が出来る大人
・楽しい大人になりたい。

（松山市立余土小学校６年生151名）

・かんたんに人を傷つけないような大人
・人を傷つけない大人
・いい大人
・人の役にたつ大人
・差別や人を変な目でみたりせず、どんな人でも平等に見れるような大人になりたいです。
・タバコをすわない。やさしい大人
・背が高くてたくましい大人
・みんなにたよりにされ、いつもえがおで元気な大人になりたい。
・やさしい、何でも大切にする大人になりたい。
・優しい大人になりたいな。あと、自分と相手の立場を考えられる人。
・やさしい人
・まじめな大人になりたい。
・やさしい人
・金持ちになりたい
・子どもの心を忘れずに、子どもの笑顔を大切にする人になりたい。だれにでもやさしく接してあげられるような人
・正義感の強い大人、子育てと仕事を両立したい。
・いそがしい人。休むひまがないくらい。
・みんなにしんらいされている人
・自分がやることを必ずやる。まかされたことはきちんとやる。
・スリムでかっこいい。
・有名な大人
・やさしくてすなおで人の役に立つ人になりたい。
・人を殺したりまんびきなどをせずに、ごくふつうの大人になっていたい。
・誰にでもやさしい大人
・しっかりしている人
・清い心を持って、人を差別せずに、みんなを平等にできるような大人になりたいです。
・やさしい大人になって、みんなからしんらいされる大人
・子どもにやさしく、だれにでもしんせつな大人になりたい。
・たばこを吸わない大人になりたい。
・やさしい大人？きれいな大人？
・いろんな子どもたちとなかよく遊べる大人
・責任感のあるやさしい大人になる。
・ふつうにやさしい大人になっていたい。ふつうすぎかもしれないけどそうなりたい。
・だれにでもやさしくできて、子ども思いな大人になりたい。
・自分の意見をきちんと言って、みんなからしたわれるような大人になりたいです。
・やさしい人
・大工でいろんな建物を建てる大人になりたいです。
・やさしい大人になっていたい。
・みんなの役に立つ大人になりたい。
・子どもとかいろんな人にやさしくしている大人になりたいです。
・人の役に立てるような大人になりたい。
・どんなことにも動じない。

・ごく普通の大人になりたい。努力ができる大人になりたい。
・やさしい人、なんでも忠実な人
・やさしくて、評判のいい人
・やさしい人になりたい。
・人のためになる人
・わるい大人になりたくない。やさしい大人になりたい。
・やさしい大人になりたい。
・やさしい大人
・シャレた大人
・やさしい大人
・優しい大人
・頭のいい大人
・子どもが好きで優しい大人
・やさしい人
・すなおで正直なかっこいい大人
・たのしくて友達がいっぱいいる大人？
・やさしい人、人にやくにたつ人
・健康な体で体力がある人
・まともな大人
・子ども好きでやさしい大人！
・仕事と家のことが両方できる大人になりたい。
・やさしい大人になりたい。
・いたずらをしない大人
・世界最速のレーサーになりたい
・やさしい人、あきらめずに最後までやりとげる人
・誰からも、尊敬される、やさしい人になりたい。
・野球がうまい人
・やさしい大人になりたい。
・子どもから尊敬される人
・いつでも、いきいきしている大人になりたいです。
・悪いことをしない大人
・病気にかからず健康な大人
・まともな人
・やさしくて、子どもに好かれてしっかり家のこととかができる大人になりたい。
・まちがったことをしない、子どもにやさしくて悪い人に厳しい大人
・やさしい人
・お母さんみたいな人。悪い事をしない大人になりたい。
・やさしくて、思いやりがある大人になりたいし、なっていたい。
・普通の大人
・すごく明るくて美人な幼稚園の時の高橋先生のようになりたい。
・役に立つ大人
・ふつうの大人
・やさしくて、子どもが聞いてきてもなんでもこたえてあげれる人
※大人になったらやりたい仕事は警察官
・強い
・犯罪者にならない。
・やさしい大人
・ふつうの大人
・人に役にたつ大人になりたい。
・やさしい大人
・人にやさしく、親せつな人
・人にも動物にもやさしくする。
・お笑い芸人になっていたい。
・ふつうの大人
・悪いことをしない大人
・つよい大人
・あこがれる人。いい見本になれる人（やさしい人、気がきく人、楽しい人）
・いい人
・決められたことはちゃんとできる人
・やさしい人
・活躍している人
・困っている人を助けてあげる大人？
※大人になったらやりたい仕事は弁護士
・ふつうの大人
・がんばれる大人
・いい大人になりたいです。
・やさしい大人になりたい。
・やさしい大人になりたい。
・ふつうの大人

・楽しい大人になりたい。
・じまんできる大人
・おもろい大人になりたい
・やさしく、ちゃんとしている人
・なんでもできるような大人になっていたい（なりたい）
・ごく普通の大人
・やさしくて何事もきちんとやってまじめな人
・やさしく子どもの事をわかってあげられる大人
・小さい子どもたちのみほんになるような立派な大人
・（無回答）
・人や動物、植物を大切にする大人
・有名で活躍できる
・活躍できる大人
・有名な人
・やさしく人のためになる大人
・やさしくてけんこうな人
・人気のある男
・人の役に立つ人になりたい
・自分に自信が持てる、そして子どもを大切にする大人になりたいです。
・困っている人がいたら助ける人になりたい。
・人の役にたてる人
・人のやくにたつ人がいい。看護師になって病気になった人を治していってあげたい。
・人との交流を深める大人になりたい。
※大人になったらやりたい仕事は老人ホームの施設の一員
・子どもと話すとき、同じ立場になって話し合うような大人になりたい。
・健康でじょうぶな体になりたい。
・サッカー選手の大人になっていたい。
・人の気持ちがわかって、仕事がちゃんとこなせる人になりたい。
・みんなから好かれる人とかになりたい。（やさしい大人とか）
・お笑いで全国的に有名になりたい。
・尊敬される、だれにでもやさしい大人
・やさしい大人になりたい
・他の人に迷わくをかける大人には、なりたくない。
・人のためにがんばれる大人
・人とたすけあいのできる大人
・人を楽しませることのできる漫画をかける大人
※大人なったらやりたい仕事は漫画家
・優しい大人になりたい。
・うんどうができる大人
・元気で健康な大人になりたいです。健康一番。
・やさしい大人
・ふつうの大人
・音楽で有名になりたい
※大人になったらやりたい仕事は警察の音楽隊

③　やりたい仕事や、なりたい自分について途中で誰かに反対されたり、事故にあって体が不自由になってしまったら、どうしますか？また、そんな風になってしまっても一度決めたことを続けていく（夢をかなえる）ためには何が必要だと思う？

（松山市立番町小学校５年生25名）

・途中で誰かに反対されても事故にあっても続ける。一度決めたことを続けていくには気持ちが大切だと思う。
・あきらめない。努力・勇気が必要！
・（回答なし）
・希望を捨てない。親が納得するまでねばる。
・毎日軽い運動を続ける。（病院に行く）
・その夢に関係する仕事をする。
・それなりに工夫し、夢を実現する。自分の根気強さと夢への希望
・出来るところまでやりたい。努力する。やり遂げる気持ち。
・自分のやりたい仕事をつき進む。心。
・１（夢をあきらめない）２（夢をあきらめない気持ち、努力を続ける）
・自分の良いところをアピールする。
・やりたい仕事の良いところを言ったり、理由・動機を言ってみる。

・夢をあきらめない。なれるよう努力する。
・続けていくには、根性、ねばり強さ。
・あきらめず続ける。努力する。
・あきらめない。努力。
・①野球のかんとくになる。②夢をあきらめない事
※大人になったらやりたい仕事は「プロ野選手」
・ぜったい夢をかなえる。こんじょう。勇気。
・体。
・あきらめない。勇気。努力。
・体が不自由になっても、反対されても続ける。続けていくためには、まわりの人の協力も必要だけど、一番は自分の気持ちだと思う。
・①続ける　②自信
・そのことができなくても、自分にできることをさがす。努力。
・反対されても、勇気を出してがんばること!!
・1　あきらめずに続ける。　2　根性
・①自分でできることをする。②根性。努力。希望。夢があればできる。

（松山市立余土小学校6年生151名）

・事故にあって仕事ができなくなっても一度決めた仕事に自分ができることをさがす。
・あきらめない心
・努力と根性
・あきらめないということ
・反対されても小学校からの夢なんだからだれにどういわれようとやりとおして、体が不自由になってもリハビリをして、必ずあきらめないことだと思います。
・事故にあって体が不自由になってもできることから少しずつやる。
・ぜったいにあきらめない努力でがんばって建築家になる。
・希望を持ち、誰に何を言われても、自分の希望をわすれないこと。
・ぼくがけがをしたとしても、病院にはもっとケガをしている人がいるからあきらめない。
・一度やりたい！と思ったことは最後までやりとげたいけど、もしもできなくなったら、それはそれで、新しい気持ちになれると思います。
・体が不自由になったら不自由でもできる仕事をやる。
・大工をしていて事故にあって大工ができなくなったら、建ものを建てるときに指導者になる。
・できると思っているとぜったいできると思うので、あきらめないようにしたらいいと思う。
・あきらめない心を持つことが必要だと思う。
・自分の気持ちをはっきりと、相手に伝わりやすいように、くふうする。相手の思いやり、本が好きな気持ち。
※大人になったらやりたい仕事は「外国語の児童書を訳す仕事」。
・努力と根性は、やっぱり必要だと思います。
・なにがなんでも夢をかなえるのではなくあきらめも大切だと思います。夢をかなえるには、自分の意識がどれくらい強いか、とわれると思う。
・わからない。でもそのときは自分とそうだんしてみる。
・スポーツ関係のマネージャーなどになって自分がめざしていたＪリーガーにはなれないけど、他の人の目標をかなえてあげたい。
※大人になったらやりたい仕事は「Ｊリーガー」。
・その仕事をやりたいと、心のおくから思いつづけ、何度も挑戦したり、説得すること。
・スポーツ選手になりたいけれど、事故にあったらリハビリなどをしてあきらめない。時間がかかってもずっと続ける。
・夢をあきらめたくない。根性。
・何度も何度も挑戦をして、できるまでする。
・誰かに反対されても、やりとげようとするけど、事故にあったりすると、自分にあった仕事を見つける。
・自分ができる限りの方法を考えて、足をけがしたら車いすでやったり、テニスショップなどを開いたりしたい。あきらめない心。
※大人になったらやりたい仕事は「テニスプレーヤー」
・あきらめてしまう。あきらめないという気持ち。

・最後まであきらめません。またそんな風になったとしても、なれるまで一生けん命勉強して希望は捨てません。
・努力して、できることをする。
・一度きめたことは、やりとげたいし、反対されても自分のことだからやりとげる。
・どんなことがあってもあきらめないという気持ち。
・もしだめになったらまた自分にあった、体が不自由になってもできる仕事をさがせばいいと思います。
・いろんな人に手伝ってもらいながらする。
・あきらめない気持ち
・反対されたら無理でもやり通す。事故にあったらリハビリしてがんばる。必要なのは努力だと思う。
・とりあえず、努力する。続けていくにはやる気と勇気が必要だと思う。
・もしも反対されたり、事故にあったりしたら人とは少し違うやり方になってしまうかもしれないけど、ぜったい夢をかなえたいのであきらめないで続けます。
・あきらめてしまう。車のことについてよく知ること。
※大人になったらやりたい仕事は「車の整備士」
・けがをしてもその大工の仕事はあきらめず、いろんな大工のことを調べいろんなことに挑戦してみます。
・不自由になっても近くのところで手紙を配ったりする。
※大人になったらやりたい仕事は「郵便局の人」
・自分が決めた仕事だから最後までやり通したい。
・あきらめずにきちんと自分の考えを伝えて、わかってもらう。
・あきらめずに最後までやりとおす。努力。
・努力とねばり
・やる気、根性、根気、努力等
・まわりの人たちの協力や、自分でやるんだという気持ち
・反対されてもやる。体が不自由になっても、パラリンピックに出る。根性が必要!!
※大人になったらやりたい仕事は「陸上選手」
・努力が必要だと思う。
・勇気、希望、自分を信じること。
・根性、精神（メンタル）、努力
・根性です。
・根性
・違うのにする（かえる）
・自分を信じること。
・一度決めたことを続ける。
・根性
・努力
・努力
・努力と勇気
・がんばるぞという気持ち
・反対されても努力する。体が不自由になったらあきらめずに生きていく。友達や回りの人の協力があって生きていけるから夢をあきらめたりしない。
・やる気!!が必要。
・一度決めたことは反対されても認められるように努力する。
・反対されてもあきらめない。
・反対されてもねばる！事故にあっても、出来ることはやりたい!!
・自分の意志が、他の人の意志に負けないように、自分の意志を大切にする。
・できるだけがんばって、自分の夢をかんたんに捨てない。あと、夢をかなえるためには、自分の意志が必要だと思う！
・希望
・違うかたちで車に接する（スポンサーかチューニングショップ）根気強く取り組み挑戦する。あきらめない。レーサーになるかぎり、テクニックの追求に終わりはない。
※大人になったらやりたい仕事は「レーサー」
・あきらめずにがんばってみる。信じること。
・すぐにあきらめない心を持つことだと思う。
・根性!!

・体が不自由になってしまってもがんばる。勇気
・一度決めたことは、それが現実のものになるまでやりとおす。挑戦。
・「やりたい」とか「なりたい」とか思う心が必要だと思う。
・あきらめずにがんばる。お金
・出来る範囲で夢をかなえる（反対されたり不自由になってもくじけない）
・一生懸命する。
・くじけずに自分の夢に負けないような、精神力
・誰かに反対されても、多分その人に自分の夢を反対する権利はないから、夢にむかってつっぱしる。
・自分を信じてがんばること。
・無理やりにでも医者になる。お金がいっぱいいるようなことになっても、医者になっていろんな人を助ける。必要なものは自分の意志。
・勇気が必要だと思う。そのやりたい事への強い思いも必要だと思う。
・希望を持ち続けること。
・一生懸命がんばって絶対、夢をかなえる。
・リハビリを続けていく。
・お金と努力
・勇気とか前向きな心だと思います。
・勇気
・希望を捨てない
・勇気
・強い心、お金
・自分のやりたいことは、他人に反対されてもとことんやる。
・あきらめないこと。
・やる気!!根性!!希望!!気合!!「やればできる！」と信じる心。
・続けていく。
・でも、夢を続ける。事故に遭わない
・強い気持ち
・その仕事をする。続けるためには…努力すること。
・リハビリをして続けていく。
・そのように体がなったら、外国がこんな風に今なってて、こんなにたいへんなんだよと、日本の人に教えてあげたいなと思う（外国にいってもなにもできないから）反対されても夢をあきらめない。
※大人なったらやりたい仕事は「外国で、人をたすけてあげたい」
・命と金と気力と体
※大人になったらやりたい仕事は「刑事」
・努力（なりたいという気持ち？）
・がんばる
・負けずにがんばる
・めげずに夢にむかって勉強する。
・お金と努力
・誰かに反対されても続けるけど、体が不自由になったら普通にあきらめる。でもそれでもできるようなことならやる。精神力、それをつらぬくこと。
※大人になったらやりたい仕事は「プロ野球選手」
・努力がやっぱり必要だと思います。
・設計士にもなりたいから、そういうこともできる。
※大人になったらやりたい仕事は「建築士」
・人の力を借りたりしたり、手が不自由になっても、書くことはできる。
※大人になったらやりたい仕事は「建築技師」
・希望とお金
・リハビリばっかりする。
・やりたいという気持ちと早くなおって欲しいという信じる力
・勇気
・それをやりたいという心
・やる気が必要だと思います。やる気をなくすとすべてをあきらめてしまうと思う。
・あきらめない。あきらめない強い信念
・それでも絶対めげずに遠回りになってもそれに向かってがんばる。自分の気持ちや意志が必要だと思う。
・反対されても、やめないで続ける。事故にあってもあきらめない。「忍耐と努力」が必要だと

思う。
・あきらめない心。まわりのささえ
・あきらめない
・もし、けがをして体が不自由になったとしても少しでも自分でできることをやる。自分でできないなら友達に手伝ってもらう。
・努力
・気力
・努力
・がんばる心（気力）
・それでもあきらめずに続ける
・あきらめずに道を歩んでいく。親友
・一度きめたことはあきらめずにする。
・誰かに反対されても、保育士はやると思う。必要なのは努力カナ？
・気力
・その夢をあきらめない。
・もし、事故にあって、車イスにのらないといけなくなったら、車イスにのってでも決めたことだから最後までやりたいと思います。
・優しさが必要だと思います。
・①何がいけないのかを聞き、そこを直す。②どんなことにもたえる根性、そして臨機応変な考え方とプラス思考が大切だと思う。
・一度自分が決めたことは最後までするつもりだけど体が不自由になったら出来ないから出来るものをする。
・体が不自由になってもリハビリをして、夢をかなえるためには勇気がいる。
・絶対にあきらめないこと。努力をおしまないこと。
・続けていくと思う。もしも、体が不自由になったら「ムリ」かもしれないけど、できることは、やりたいと思う。
・みんなに何を言われても自分の夢をあきらめない勇気。
・あきらめずにできるところまでがんばる。あきらめない心と努力。
・努力する。
・努力して続ける
・一生懸命やりとおすという気持ち
・一生懸命せっとくして努力する？
・あきらめないことが大切だと思う。
・あきらめないこと。
・反対されても仕事をやる。体が不自由になっても仕事をやる。
・反対されたらその体でできる仕事をする。体が不自由になったら。体が不自由でも出来る仕事を見つけてする。
・気持ち
・☆反対されたり、体が不自由になってもその仕事をやりとげたい。☆努力が必要だと思う。
・誰に何を言われても、自分の夢をあきらめない勇気

**資料5　子どもたちへの追跡調査結果**

「鑑真さんってどういう人だったと思う？」
鑑真さんについて自分の心に残っていること、なんでもいいので教えてください。

（松山市立番町小学校　もと5年生18名）
・苦労をのりこえて、立派な人だと思います。苦労をのりこえても、うれしそうにしない。がんじんさんは何かなやみがある人ではないでしょうか。
・何事もあきらめずに、最後までやりとげる人
・ねばり強い人。目が見えなくても、仲間を失ってもがんばった人。日本で亡くなった。
・日本に来るだけなのに、仲間をなくし、目まで見えなくなったのだから、とてもかわいそうだと思う。それでも、日本に来れて、よかったねって声をかけてあげたい。
・がん真さんは、目が見えなくなっていたけれどあきらめないとってもすごい人だと思う。
・自分が病気になってもあきらめず、とても勇気のある人だと思った。
・い国から日本にやってきた人。目が見えなくなった人。自分のやりたいことをなしとげて笑顔ではないが、おくそこによろこびをひめている人。日本にくると中、仲間が何人か死に、うらぎられたりした人。

・とても、かわいそうだけど、日本に来られて良かったねと声をかけてあげたい。
・目が見えなくても、とてもうれしそうな顔だった。と中で仲間とはなれてしまったのに最後まであきらめずに海をわたって日本に来てとてもすごいと思った。自分だったらできないと思う。
・中国から約12年くらいかけてきた人。仲間に裏切られたり、死んだ人もいたけど、一人で、ながたびをした人。日本にきたときは、目がみえなかった。がん真さんはがまん強かった。私は、そんな、がん真さんにあこがれました。
・鑑真さんはとても苦労して日本に来てすごいと思う。鑑真さんは顔を見たらなみだを流してるように見えた。
・顔…やっと日本についていままでのことは忘れるくらいうれしくて笑ってもいたし、いままでの苦しみを思い出し、悲しそうにも見えた。
・がん真さんは中国から日本に仏教などを伝えに来ると中、仲間をなくしたりしながら日本に来たけど、ついた時はもう目が見えなくなっていた。私達が見たがん真さんはつらそうな顔でした。
・中国から来て、ぶっきょうをおしえた人。12年かけて、日本に仏教を伝えた。
・私は、顔を見ると、悲しそうな顔でした。仲間たちは死んだり、自分の目が見えないのでとてもかわいそうでした。
・鑑真さんの顔は目標をたっせいしたのに、かなしそうな顔をしていた。仲間がいなくなっても、嵐にあっても、どんなことがあってもあきらめなかった。
・がんじんさんはきびしくて、まずしそうな人だと思う。きびしいという思いは、がんじんさんの目をつぶっている所。まずしいというのは、ほっぺたがやせている所から。
・ぼくは鑑真さんの顔を見て少しかなしそうな顔をしていると思いました。せいかくは落ち着いていてとてもえらく自分にきびしく人にやさしいせいかくだと思いました。
・がんじんさんは、勇気のある人だと思います。なんでかというと、がんじんさんは遠くから来たからです。がんじんさんの顔は、私にはじゅうじつ感でいっぱいの顔に見えました。たぶん本当にそうだったんだと思います。